



AA日本ニューズレター

No.204

■初めて経験したオンラインによる評議会を振り返って

議事(評議会)担当理事 今井

皆さま、日頃よりゼネラルサービスにご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年より続く新型コロナウイルス感染が収束しない状況下、第26回AA日本評議会(令和3年2月6日~8日)が開催されすべての予定されたプログラムが無事終了できたことをご報告させていただきます。

今回の評議会は初めてのオンラインによる進行ということでのような事態が起こるか分からない手探りの状態でのスタートでした。無事に開催できたことは、評議会事務局スタッフならびに多くの事務局ボランティアの経験と変わらぬ熱意と奉仕の精神の賜物であったことをこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

また、当日各地域の評議員をつないでくれたテクニカルサポートのメンバー、一足早くオンラインによる評議会を開催したアメリカ・カナダ評議会の経験をつないでくれたWSM評議員とアメリカ・カナダのメンバー、そして評議会構成メンバーひとりひとりの協力に御礼申し上げます。

昨年9月22日例年通り評議会準備会議が池袋JSO事務所にて開かれました。参加者は評議会第1分科会議長と前議長、評議会事務局長そして担当理事。この時点ではオンラインでの開催が現実味を帯びてきましたが通常開催も十分に視野に入った状況でした。

事態が変わり10月に入り通常開催が危ぶまれるなかオンライン開催による模索が始まることになりました。年内4回に渡るブレインストーミング、評議会開催まで8回開かれた評議会事務局会議そして評議会構成メンバーと事務局が当日の評議会を想定して実施された3回の評議会トライアル。

それぞれオンラインに向けて想定される問題点の洗い出しと解決を図ってきました。

そして何よりも大切なことは、共同創始者や草創期のメンバーから受け継いだリーダーシップをオンラインでも十分に受け継ぎ話し合うことができるかという点です。

結果は驚くほどいつもと変わらぬスピリチュアルに満ちた時間と空間の共有ができました。

AAの3つの遺産(回復=12のステップ、一体性=12の伝統、

サービス=12の概念)は今年の評議会でもしっかりと息づいていました。AAメンバーの皆さん、詳しくは評議会報告書をご覧くださいか「あなたの評議員」にたずねてください。

何故、評議会が必要なのか？

当時の常任理事会のチェアパーソンであり、評議会機構の立案者の一人でもあったノン・アルコールの故バーナード・スミス氏は、1954年の会合の開会の言葉の中で、この質問に対し見事な解答を出している。

我々自身の回復を確保するのに、ゼネラルサービス評議会は必要ないかも知れない。我々がそれを必要とするのは、この会場からほんの一区画ほど先の暗闇の中で、今もよろめいて歩いているアルコールの回復を確保するためである。我々にそれが必要なのは、アルコールリズムにかかることが定められて今誕生している子供たちの回復を確保するためである。我々にそれが必要なのは、あらゆる年齢を越えて我々に再び生命を与えてくれたあの再生を、全てのアルコールがAAで見いだすことができるよう、12番目のステップを使って彼らに永遠の安息所を提供するためである。

我々にそれが必要なのは、権力や名声への衝動がもたらす破滅を絶対にAAには入り込ませてはならないし、それを確実にしていかなければならないことを、他の誰でもない我々が意識していくためである。我々にそれが必要なのは、無政府主義(無秩序)とは絶縁し、しかも政治的体制からもAAを守っていくためである。また過度の統合は妨げ、しかも分裂からもAAを守っていくためである。アルコールクス・アノニマスが、そしてアルコールクス・アノニマスだけが、その12のステップ、その12の伝統、そしてそのあらゆるサービスの本源的な宝庫であるため、我々にはそれが必要なのである。

『AA サービスマニュアル』42頁より

第26回評議会を終えて

～仲間とともに向き合ってゆく責任と幸せ～

-+---*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*

第1分科会議長 中谷(関東甲信越地域選出評議員)

昨年11月の地域集会で評議員に選出いただきました、中谷と申します。年齢は51歳でホームグループは築地グループです。ニックネームは有作です。

2010年冬、退院したての足でなぜか病院近くの海岸に向かいました。冷たい風を寒いと感じず、ネズミ色の空と海を見ながら最後の飲酒をしました。それから11年の歳月をAAの仲間の中で過ごしてきました。最初は規則正しい生活習慣、次に社会生活への復帰、そして仕事をしながらAAにたずさわること・・・というように、ソーパーに応じて次々とやってくる自身の課題にひとつずつ向き合っただけ自我の収縮につながったか説明するまでもありません。いつしか自分はさておき・・・という方向になっています。

AAの3つのレガシーであるステップ・伝統・サービスがアルコール依存症者にとって大切なことであるかを感じながら、自分の中でもバランスが偏らないよう意識しながら過ごしています。

グループ・地区・地域のサービス活動にかかわり続けることがどれだけ自我の収縮につながったか説明するまでもありません。いつしか自分はさておき・・・という方向になっています。

昨年の選出を受けて自身でやったことは書籍や過去の報告書を読み返すことくらいでした。

1月に任意参加の勉強会を開催していただきましたので参加しました。そこで実際の議案に対して意見を述べて他の仲間の意見を聞く。その繰り返して心が引き締まってゆき、評議会に臨みました。

経験しているようではっきりしていなかった、動議やアピールといったルールを実体感しながら熱い議論に参加できたのは大きな心の財産となりました。どの議題も活発な意見が出ていてとても驚きました。初日が終わった後に「評議会やっぱすごいね！」と仲間とLINEをしました。コロナ禍での開催となり史上初のオンライン開催ということでトライアルの機会も作っていただいたことが成功に大きく結びついたと思います。

不安な気持ちを極力抑えて当日を迎えることができ、滞りなくすべての議題を審議完了できたのは支えてくださった事務局のみなさまのおかげです。

この度、次回第27回の第一分科会の議長に選出いただきました。どんな議題提案にも誠心誠意向き合っただけ所存です。

次回に向けたテーマは「優先されなければならないのは全体の福利」仲間とともに向き合っただけ責任と幸せを感じています。

第26回評議会を終えて

～希望が分かち合われる場所～

-+---*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*--*

第2分科会議長 東(関東甲信越地域選出評議員)

「アルコールクス・アノニマス成年に達する」という書籍を読みました。AAは社会の様々な分野の方々と協力関係の中でこそ、今この病気に苦しんでいる人たちへの手助けを続けていくことができ、また、AAは社会から隔絶された場所ではなく、その協力関係を通してこそ真に必要な場所になり得る、自分は社会の中で無用の存在になったのではなく、飲まずに生活するアルコールクとしてAAグループを通して社会と関わっていくことで有用な存在になり得る、というようなメッセージを私に伝え続けてくれます。

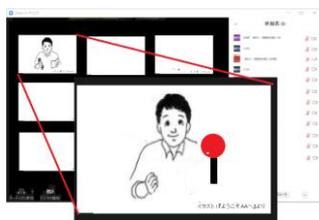
本の中に書かれている方々の、大切な思いとともに発せられたであろう言葉が、心に響いて命をつなげてくれると感じます。悲しみや喪失のようなものをいやすそれ以上に、今感じるこの笑顔、アルコールクとしてあたえられたかもしれないこの素晴らしいチャンスを活かしたいというように、希望と光で心が踊ってくるようなそんな素敵な本だと思います。

この本ではAAのサービスについて、評議会についても多く触れられています。今回私は評議員として評議会に参加いたしました。未だ多くを学ぶ必要があることは確かですが、評議会の目的のひとつとして、まさにこの本が伝えるであろうメッセージが、AAの内外によりよく伝わるために行われている会議なのではないだろうかと思いました。

オンライン開催された今回の評議会では、綿密に準備された高度で安定したオンライン環境の中で会議が行われ、ミーティングでAAメンバーが真剣に分かち合う時と同じまなざしで、参加メンバーの皆さんが真剣に審議と採決に臨み、その結果が記録されました。今回、第二分科会で選出をいただき議長を務めさせていただきます。評議員には、地域選出評議員として地域の良心を携える大切さに加えて、変化していく情勢に沿いながら進化するテクノロジーで地理的な条件を超えて普遍的なサービスを活発にしている世界中のグループ、メンバーの思い、そして行動がAA全体のサービス活動へより良い形で反映されるための行動が求められているのではと思います。それらの責任を是非担っていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



採決(議題採決、動議賛否等):採決札を使用する。議決権者数は、ビデオをオンしている出席者の数。発言権のみの出席者(WSM 評議員、JSO の一部)は採決時、一時的に【ビデオの停止】。多摩永山情報教育センターの評議会事務局が議決権



者数と賛成、反対、保留の採決札数をカウントし、議長に報告(板書に記録)。議長は報告(記録)された内容を読み上げ出席者に報告。

※採決札数のカウントは運営メンバーが出席している多摩永山情報教育センターで行う原則。オンライン環境によって差異が出ないように配慮。

採決終了後のアピールも、議長「アピール権を行使したい人がいるか」の問いに該当者は【手を挙げる】にて議長から指名されるまで待機。議長より指名されたらアピール内容を発言。以降、採決札により議長が「多数派で意見を変えた」「再審議を行う」を確認しながら進行。

※アピールが複数ある場合も1件ずつ内容を確認。※過半数の賛成が必要な「その動議を受け入れるか」「再審議を行うか」「採決を行ってよいか」で結果が明らかならば、議長が「明らかに過半数に至らない(至る)」ことを報告し次に進むことも可能。

採決(信任投票、第3レガシー手続き):B類常任理事の信任投票や分科会議長の選出投票は、【投票】(無記名投票)を使用。人に関わることへの配慮。

B類常任理事の信任投票は、B類常任理事の人数分の【投票】を立ち上げ、それぞれに選択肢「信任」「不信任」「白票」を準備。

分科会議長の選出投票は、事前には立候補をされる方が不明なので、仮に立候補者「A」と立候補者「B」として準備。議長より「Aは〇〇さん、Bは△△さん」と割り当てることも可能。

第3レガシー手続きは、次回評議会に向けたテーマ選定にて使用。1つの【投票】に複数の提案されたテーマを選択肢として準備。板書には、2回目の投票で1/5の得票に満たなかったテーマは除外…等の計算式を組み込んだエクセルを使用。

採決(拍手承認):議長は明らかに出席者全員の賛成が得られそうな場合には拍手承認を促し、出席者はカメラに映るように拍手のリアクションを行う。

万が一、拍手承認に異論のある出席者は、手を振る首を振る等のリアクションをした上で、「手を挙げる」で発言準備。

その他:議題の文言や採決結果の表示に評議会事務局が【画面共有】を使用。多少の混乱あり。発言2分を知らせるキッチンタイマーがマイクでは拾わないことが判明。

出席者からの感想等

-+--+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-*

評議会アンケートより抜粋

目が疲れるので長めの休憩(15~20分くらい)が必要。オンラインの方がスムーズに議事が進む気がした。評議会独特の緊張感ある雰囲気がZoomのために味わえなかった事や、他の地域の仲間との雑談ができなかった事が残念。こういう雑談の中に良い情報交換があったのだと改めてあらためて思いました。オリエンテーションは大変ありがたかった。初のオンラインでの開催ということでもう少し混乱があるかと思ったが無事に終わられました。今後もオンライン開催となるなら、日程を長めにして時間的にゆとりのあるスケジュールにしてもらえるといい。何回にもわたるブレインストーミングやトライアルにより、不安なくオンラインで参加できたことは非常に良かったと思う。緊張感もありましたが、オンラインであることを逆に利用して休憩時間はリラックスする手段がありました。画面から仲間の皆さんの想いがピンピン伝わってきて正直驚きました。現地開催であればもっと白熱したものになるだろうなと感じました。一番心配な通信トラブルもなく、無事に全プログラムが完了したことに感謝します。意見を聞くことも発言する事も、リアルで行うよりも聞きやすい言いやすい感じがしました。半面、臨場感と言いますか、会議の熱気みたいなものはリアルより薄かったように思います。今回の評議会は、オンラインでもサービスに参加することができるという、良い例になったのでは。オンラインでは隣や前後の議員とヒソヒソ議論が無い分、周りに左右されず率直な発言ができた。これはメリットかデメリットか判断しづらいが、対面式では隣や前後の雰囲気(プレッシャーやいいいけムード)で発言していたところがありました

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月~金)10:00~18:00 (土・日・祝) 休